

1 未然防止

○ 欠席のきっかけ（％）（※児童生徒調査は、欠席したいと思ったきっかけ。保護者調査は欠席日数が1か月以上のみ）

		小学校	中学校	高校	特別支援学校
児童生徒調査	友達との関係	35.7	36.8	27.9	
	クラスの雰囲気	18.0	18.5	16.3	
	先生との関係	15.0	14.4	9.5	
保護者調査	友達との関係	30.3	38.1	33.8	25.9
	クラスの雰囲気	42.4	45.7	40.5	29.6
	先生との関係	48.5	34.0	29.9	40.7

○ 欠席したい気持ちを減らせる要因と欠席しなかった理由（％）（※欠席したいと思ったことがある児童生徒の回答）

			小学校	中学校	高校
児童生徒調査	欠席したい気持ちを減らせる要因 ※欠席ありの児童生徒	安心して話せる友達がいる	58.5	55.4	43.4
		安心して話せる担任がいる	33.1	25.0	12.5
		クラスとは違う過ごせる場所	24.8	26.2	17.1
欠席しなかった理由 ※欠席なしの児童生徒	学校に行かなければならない	39.5	50.2	56.3	
	安心して話せる友達がいる	37.5	33.9	21.2	

- ・ 児童生徒が欠席したいと思ったきっかけは、全校種で友達との人間関係の割合が高い。特に女子は男子より割合が高い。
 - ・ 休むようになったきっかけについて、保護者の認識は、クラスの雰囲気、教員との関係、友人との関係の割合が高い。
 - ・ 欠席したい気持ちを減らせる要因は、全校種で安心できる友達がいることの割合が高い。小中学校では「安心して話せる担任」、中学校では「クラスとは違う過ごせる場所」が高い
 - ・ 欠席したいと思っても欠席しない理由は「学校に行かなければならない」「友達の存在」が高い。
- ⇒子どもたちにとって友達の存在は大きい。クラスの雰囲気も大切。
- ⇒担任の存在も重要。教員の生徒指導や教育相談の資質・能力向上が求められる。

○学校生活で安心できると感じる状況（％）

		小学校			中学校			高校		
		欠席あり	欠席意向ある が欠席なし	欠席意向なし	欠席あり	欠席意向ある が欠席なし	欠席意向なし	欠席あり	欠席意向ある が欠席なし	欠席意向なし
児童生徒調査	教科の授業	26.7	30.8	48.0	16.2	19.8	36.7	12.5	14.2	25.2
	休み時間・放課後	67.3	66.6	75.5	59.4	61.8	75.2	50.7	52.7	63.7
	体育的行事	25.7	28.9	43.1	21.7	28.2	46.5	17.8	19.2	32.7
	部活動等	35.7	34.7	49.9	27.8	35.8	53.5	20.3	24.8	36.6
	友達	54.1	64.2	76.2	58.1	66.1	77.3	46.7	51.3	60.4
	担任の先生	33.3	33.1	52.6	22.4	24.1	43.9	14.1	14.7	26.1

・ 欠席意向なしの児童生徒は、欠席意向のある児童生徒比べて、すべての状況で安心できると感じている割合が高い。
 ・ 全校種で「休み時間や放課後の場面」「安心して話せる友達がいること」の割合が高い。
 ・ 欠席傾向別による差は、小学校では「担任の先生」「教科の授業」、中学校では「担任の先生」「体育的行事」「部活動等」、高校では「体育的行事」で大きい。
 ⇒学校生活における安心感が大切。
 ⇒特に、教員との関わりや授業など、教育活動中の安心感が欠席状況に影響をあたえている可能性が高い。

○中学校生活に対する気持ち（％）（小学6年生のみ回答）

		まったく心配ない	どちらかという と心配ない	どちらかという と心配	とても心配	無回答
		児童生徒指導	上級生との関わり	32.8	24.4	27.0
	新しい先生	34.2	24.6	25.1	13.5	2.6
	勉強	20.0	23.0	31.1	23.5	2.4

・ 「勉強」に関して心配している割合が最も高く、次いで「上級生との関わり」「新しい先生との出会い」が高い。
 ⇒勉強や目上の人との関わりに不安を抱えている児童が多い。

2 初期対応

○ 相談に関すること（％）（欠席したいと思い、実際に欠席したことがある児童生徒の回答）

		小学校	中学校	高校	
児童生徒調査	欠席したいと思った時、誰にも相談しなかった	36.2	45.1	48.4	
	相談した相手	家族	89.7	88.4	79.4
		担任	25.4	27.2	20.3
		友人	24.8	33.5	40.9
	相談しなかった理由	相手の反応が不安	40.0	35.7	25.0
		相手に迷惑をかけると思った	40.0	36.4	22.3
		どう話したら良いかわからない	41.1	37.3	26.2

○ 欠席のきっかけ（％）（※児童生徒調査は、欠席したいと思ったきっかけ）

		小学校	中学校	高校	特別支援学校	
児童生徒調査	身体の不調	欠席意向あるが欠席なし	12.9	14.8	15.9	
		欠席あり	27.1	34.9	33.9	
保護者調査	身体の不調	欠席1か月未満	40.9	40.0	44.8	38.3
		欠席1か月以上	31.1	35.4	41.6	33.3



- ・ 誰にも相談しなかった児童生徒が約半数。相手の反応が不安等の理由が多い。
- ・ 相談相手のほとんどは家族で、担任、友人も多い。
- ・ 欠席のきっかけが「身体の不調」であることについて、
児童生徒調査では、欠席意向あるが欠席なしの生徒より、欠席ありの児童生徒の方が高い。
保護者調査では、欠席期間が1か月以上より1か月未満の方が高い。
- ⇒ 誰にも相談しなかった児童生徒が多い。相談相手は家族や担任、友人など、身近な人。
- ⇒ 児童生徒が欠席したいと思ったとき実際に欠席するきっかけに「身体の不調」がある。
保護者は、初期段階で身体的不調を認識している可能性がある。

3 不登校児童生徒への支援

○ 児童生徒が支援機関を利用した割合（％）（欠席日数の合計が1か月以上のみ）

		小学校	中学校	高校	特別支援学校
保護者調査	自宅のみ	40.2	49.5	56.9	37.0
	校内の別室	27.3	33.3	17.4	7.4
	市町教育支援センター	50.8	44.3	14.8	3.7
	フリースクール等	37.1	20.3	2.3	11.1

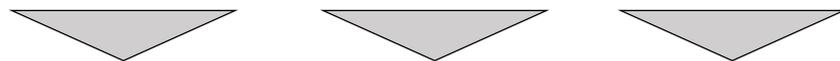
○ 利用しなかった理由（％）（欠席日数の合計が1か月以上のみ）

			小学校	中学校	高校	特別支援学校
保護者調査	別室	利用できることを知らなかった	9.1	11.3	22.6	25.9
		知っていたが利用しなかった	15.2	36.1	20.8	18.5
		必要性を感じなかった	52.2	33.0	49.7	50.0
		子どもが家から出られなかった	47.8	31.3	15.0	7.1
	教育支援センター	利用できることを知らなかった	12.9	18.2	51.7	48.1
		知っていたが利用しなかった	36.4	35.7	31.9	48.1
		必要性を感じなかった	47.3	43.7	44.5	25.0
		子どもが家から出られなかった	21.8	22.2	9.8	13.9
	フリースクール等	利用できることを知らなかった	8.3	13.4	50.9	51.9
		知っていたが利用しなかった	53.8	64.9	43.6	29.6
		必要性を感じなかった	36.7	38.2	40.6	25.0
		子どもが家から出られなかった	22.8	20.5	11.0	21.4

- ・ 支援機関を利用せず、「自宅のみ」で過ごしていた児童生徒は4～5割程度で、学校段階が上がるにつれ割合が高い。
 - ・ 利用しない理由は、「必要性を感じなかった」「子どもが家から出られない」「利用できることを知らなかった」の割合が高い。
- ⇒ 支援機関の存在や有効性があまり知られていない。
- ⇒ 家から出られない児童生徒への支援方法を考える必要がある。

○ 保護者の気持ちの回復や安定につながった支援（％）（欠席日数の合計が1か月以上のみ）

		小学校	中学校	高校	特別支援学校
保護者調査	家族の理解や協力	45.5	36.1	28.3	29.6
	先生との電話相談や面談	25.0	27.1	35.6	25.9
	スクールカウンセラーへの相談	18.2	18.2	14.5	11.1
	スクールソーシャルワーカーへの相談	7.6	5.5	0.5	3.7
	教育支援センターでの相談	15.9	21.3	4.7	3.7
	フリースクール職員への相談	26.5	14.8	2.9	4.3
	不登校の親の会での相談	28.0	21.3	5.5	3.7
	医療機関への相談	34.8	27.5	27.5	40.7
	出欠連絡の方法等についての学校との相談	31.1	26.8	10.4	3.7



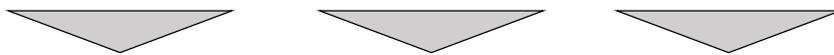
- ・「先生への電話相談」が2～3割程度。「出欠連絡の方法等についての学校との相談」は小中学校で2～3割程度。
 - ・「家族の理解」「親の会、フリースクール、医療機関への相談」は小学校では高いが、学校段階が上がると割合が低い。
- ⇒学校や教員が、ニーズに応じた支援を行うことで、保護者の気持ちの回復や安定につながる。
- ⇒学校外の支援団体等に保護者をつなげる必要がある。

○ 子どもが学校を休んでいる間の保護者の気持ち（％）（欠席日数の合計が1か月以上のみ）

		小学校	中学校	高校	特別支援学校
保護者調査	進路や将来が不安	68.9	79.4	79.7	66.7
	勉強の遅れが不安	68.9	69.1	53.5	18.5
	いつ学校に戻れるか不安	57.6	54.3	57.1	40.7
	欠席連絡が負担	66.7	68.4	59.0	33.3

○ 不登校の子どもや保護者への支援の充実に向けて、今後必要だと思う取組（％）（欠席日数の合計が1か月以上のみ）

		小学校	中学校	高校	特別支援学校
保護者調査	相談窓口の充実	53.0	46.0	32.2	48.1
	教員向け研修の充実	72.0	57.4	34.8	40.7
	外出できない子への公的支援	65.2	53.6	39.0	40.7
	授業のオンライン視聴	54.5	55.3	61.0	29.6
	経済的な支援	66.7	45.0	19.7	44.4



- ・ 子どもが休んでいる間の保護者の気持ちでは、全校種で「進路や将来が不安」が最も高い。
小・中・高校では、「勉強の遅れが不安」「学校に戻れるか不安」「欠席連絡が負担」の割合も高い。
- ・ 今後必要だと思う取組では、「教員向け研修の充実」「外出できない子への公的支援」「授業のオンライン視聴」の割合が高い。
小・中・特別支援学校では、「相談窓口の充実」「経済的な支援」の割合も高い。
- ⇒保護者は勉強の遅れや進路選択上のリスクを心配している。
- ⇒保護者への支援に向けた教員の資質向上、相談窓口の充実、経済的な支援を求めている。

4 地域の違いによる比較

○ 地域（教育事務所単位）による違い（%）（児童生徒調査）

		小学校							中学校						
		A	B	C	D	E	F	G	A	B	C	D	E	F	G
欠席意向あり		21.5	21.3	23.2	27.6	21.7	22.2	22.6	28.6	29.2	33.3	27.9	25.8	33.3	25.7
欠席したいと 思ったきっかけ	友人関係	31.3	32.8	37.5	38.4	41.4	33.7	35.2	34.3	35.6	35.5	41.8	35.8	41.9	34.3
	クラスの雰囲気	19.0	20.4	19.1	19.9	16.7	17.6	15.6	18.9	20.9	19.6	18.4	15.9	19.9	15.8
	先生との関係	13.0	14.5	16.5	17.5	8.1	12.5	17.0	15.1	16.8	13.8	12.5	11.8	9.6	17.6
	勉強のこと	21.9	18.7	19.9	19.5	14.9	19.9	20.9	26.9	28.8	23.6	26.6	25.8	30.6	26.8
実際欠席あり		22.2	24.3	25.2	28.3	29.7	30.6	30.0	33.2	39.0	30.6	33.6	34.7	30.6	27.4
誰にも相談しなかった		44.3	45.6	31.3	42.9	37.9	30.0	35.0	52.4	40.0	54.9	46.8	46.5	54.9	48.2
相談相手	担任	32.4	21.4	25.2	21.7	26.3	24.7	26.0	28.4	23.7	28.1	36.4	25.5	25.6	25.3
	友人	21.6	25.0	28.0	28.3	18.4	19.5	26.7	35.1	39.0	30.6	36.4	31.9	26.8	37.3
	家族	97.3	89.3	89.7	82.6	97.4	89.6	87.8	86.5	84.7	86.8	86.4	76.6	85.4	80.7



・それぞれの項目について、地域による差が見受けられる。特に、欠席したいと思ったとき、誰にも相談しなかった割合は、小中ともに一番高い地区と一番低い地域で15ポイント程度の差がある。

・一方で、項目によって回答割合が高い地区・低い地区は異なる。

⇒地域によって状況は多様であり、それぞれの地域の状況を見極めた上で、支援を講じる必要がある。